

博士を取得されています。平成 11 年に通信総合研究所を退職され、同年、東北大学電気通信研究所教授として赴任されました。

杉浦先生は無線通信や電子情報機器における電磁障害対策の重要性に早くから着目され、環境電磁工学 (EMC) 分野の研究に一貫して従事されてきました。通信総合研究所時代には電磁妨害波測定受信機の検波方式、妨害波測定用アンテナの高精度校正法、測定場の評価法など、主に測定法の分野において多大の貢献をされ、この分野における世界の第一人者となられました。東北大学に赴任後は、通信の EMC を対象に研究テーマを拡げられ、多くの研究成果をあげられました。その一部は CISPR (国際電磁障害特別委員会) の定める電磁妨害波測定法の国際標準として規格化され、今日世界各国で使用されています。

また、先生は情報通信審議会・技術分科会の専門委員、CISPR 委員会主査として、通信・放送システムの電磁干渉問題に関する国内規格策定を通じて通信・放送行政に長年貢献をされてきました。特に電力線通信 (PLC) システムから無線通信への干渉を防止するための技術規格を世界に先駆けて作成され、我が国の広帯域 PLC シス

テムの導入に極めて大きな貢献をされています。学会活動においても電子情報通信学会環境電磁工学研究専門委員会顧問、同学会代議員、IEEE/EMC-S Sendai chapter 委員長、2004 年 EMC 国際シンポジウム (EMC'04/Sendai) 組織委員長などの要職を歴任されました。

杉浦先生は研究室ゼミでは研究や発表の内容について、大変鋭くかつ具体的なコメントを欠かさない一方、研究を離れるとお酒を大変愛好され、コンパで学生と気さくに話をされるのを何よりも楽しみにされていました。また就職面接の迫った学生には、自ら会社の面接担当者を演じて本番さながらの面接リハーサルをされていましたが、これが大変役立ったという卒業生も少なくないのではないかと思います。

杉浦先生はご退職後も独立行政法人情報通信研究機構プログラムディレクタ、財団法人テレコムエンジニアリングセンター参与 (技術顧問) として、引き続きわが国の EMC 分野の進展に尽力されています。先生のご健勝と益々のご活躍をお祈りするとともに、今後も後進へのご指導とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

(松本 泰 記)

舛岡富士雄先生ご退職



電気通信研究所・固体電子工学研究分野の教授として研究と教育にご尽力されました舛岡富士雄先生が、平成 19 年 3 月 31 日に退職されました。先生は、昭和 41 年東北大学工学部電子工学科をご卒業後、大学院在学中は西澤潤一教授のもとで研究に没頭され昭和 46 年に工学博士を取得、東芝に入社されました。先生のご業績を改めてご紹介するまでもなく、フラッシュメモリの発明者としてその名は世界中に知れ渡っています。

フランスで 2003 年に発刊された“UNE BREVE HISTOIRE DE l'electronique (エレクトロニクスの歴史)”という 640 ページの本の中では、パスカル、マックスウェル、ヘルツ、マルコーニ、エジソン、・・・電気工学の歴史上の人物を写真つきで紹介しています。最近では、計算機のシャノン、ノイマンが、そして半導体の世界ではベル研究所のショックレー、バーディーン、プラッテン、集積回路のキルビー、ノイスと続き、Fujio Masuoka, inventeur de la memoire flash (舛岡富士雄、フラッシュメモリの発明者) と先生が登場します。この本に登場する日本人は他に Yagi-Uda, Esaki で、顔写真入りは先生だけで、東芝で発明し 1994 年に東北大学に教授として移ったともき

ちんと書かれています。この本によれば、日本には、電気系の大学は東北大学のみということになります。

nature 誌の 2006 年 8 月号の、“Spot light on Sendai” という記事では東北大学の世界的に著名な科学者とその発明として Yagi-Uda antenna, Kinjiro Okabe; Divided anode type magnetron, Fujio Masuoka; flash memory が取り上げられています。全部、電気系です。

続く 10 月号の nature 誌の“Japan's new premier chases innovation” という記事では、最初に安倍元総理がイノベーションを推進するとあります。続いて阿部前々東北大総長が「それは良い。」と言い、最後に先生が一言、「僕はなんにも変わらないと思うよ。」で終わります。「舛岡はここ数年間、3次元集積回路の研究資金をあらゆる省庁から拒絶され続けた。“捨てる神あれば拾う神あり”3年前にドバイから 100億円の投資があった。」日本では文部科学省から研究費をもらえないのに、ドバイの投資家は自家用ジェットで先生に何回も会いに来て 100億円の投資をしました。その資金で先生は 3次元集積回路の研究所を仙台と東京に作り、さらに本年シンガポール政府の研究所と共同研究の契約を締結し、世界を相手に「夢を実現するシリコン集積回路」の研究を展開されています。

先生の今後のご健勝とますますのご活躍をお祈り申し上げますとともに、これからも私たちに大きな夢を与え続けてくださることを期待しています。

(桜庭 弘 記)